

下水道内に含まれる疫病の自動、無人での発見システム



バングラデシュ人民共和国

4年前から、バングラデシュの高校生達が、POLY-GLU の速効性凝集剤を使用して、下水道内に含まれる疫病の自動、無人発見システムを開発しました。

左図の様にバングラデシュは、数限りない運河に囲まれており、ヒ素被害、大腸、赤痢等の伝染病も多い国です。POLY-GLU の高度な浄化力に目を付けた、高校生、医学生チームの発案で、各運河に監視所を設置して、上流の感

染監視を行っています。

この動きに、触発されたペルーチームは、世界遺産マチュ・ピチュの国で、ヒ素の除去監視システムを開発しました。既にペルーでは、州政府許可を得て実用化を進めています。他に、インド、パキスタンカメルーンなども同様です。

私が、この文章を公開するのは、我が国の研究が余りにも幼稚で遅すぎることを無視出来ないからです。私達の研究開発は全額自費での開発なので、非難される理由は露ほどもありません。

しかし、塩野義さん、厚労省、学識経験者が、「すごい事をやたぞ」と朝のニュースで馬鹿喜びしている様子は、海外の高大学生に笑われるのは必定です。

正直言います。「常識程度は真面目に勉強してよ！」知らないなら聞きにきてよ！ これ以上世界に恥を晒さないでよ。恥さらしに加えて、随分公費も使つとるだろう？ 我々は全額自費だよ。恥ずかしくないかい？

もっと世界を知ってほしいね！

小田 兼利